ぶ　ら　り　わ　が　街　宮　沢　界　隈

(26)　史跡めぐり、神社・寺院用語解説と読み方　－Ⅱ－　寺院ー阿弥陀寺

寺院(じいん):仏像を安置し僧・尼が居住し、道を修し教法を説く殿舎.院は支院。

「阿弥陀寺」－{所在地}　宮沢町２－36－６　旧宮沢村の古刹(こさつ):古く由緒ある寺。宗派(しゆうは):仏教に属する教養の宣布及び儀式の施行を目的とし、寺院・教会所その他の所属団体・信徒・僧侶を包括する宗教団体.} 真言宗(しんごんしゅう):＊下記①.智山派(ちさんは):*下記②。

{山号(さんごう):寺院の名に冠する称号.寺院は多く山にあり、山の名を山号とした.}　宮沢山

{院号(いんごう):修験者などの年功をへて「院」＝寺の字をつけた称号}　無量院

{本尊(ほんぞん):信仰・祈祷(きとう)の対象として、寺院に安置する仏・菩薩(ぼさつ)}　阿弥陀如来

{由緒・沿革}　開山(かいざん):宗派・寺院の創設者＝開祖。および開創(かいそう):特に寺を開くこと。年代は不詳であるが、建治３年(1277)・嘉暦１０年(1329)などの板碑(いたひ):石塔婆(とうば)の一種.平板石を用い、頭を三角形に作ったものが多い。鎌倉・桃山時代の死者追善.市域では、５２基が発見.が現存することから、開創は鎌倉時代に遡ると思われる。当寺は元来、現宮沢町２－３４先付近にあったが、元禄年間(1688～1704)に火災にあい、その直後、現在地に移転したと伝えられる。

{堂宇(どうう):神仏を祭る建築物.・その他の文化財}　現本堂(ほんどう):寺院で本尊を安置する建物。は元禄１４年(1701)、山門(さんもん):寺院は山林にあるべきものとして山号を有したのでいう.寺院の門.は享保１０年(１７２５)の造立(ぞうりゅう):寺・社・塔などを建設すること.とされているので、おそらく移転直後に建立(こんりゅう):造立と同じ. されたものであろう。

なお、境内墓地には江戸時代の宮沢村領主(りょうしゅ):江戸時代無城のもので陣屋を設けて領内を治めた小大名.国主・城主より地位が低かった. 鎌田氏の墓地があるが、その初代孫左衛門正久の供養碑(くようひ):三宝(仏・法・僧)または死者の霊に諸物を供え回向(えこう)すること。碑は、後世に伝えるため、石に文を刻んで建てたもの. いしぶみ。は、たたくと金属音を発するところから、古来「かんかん石」の名で呼ばれている。また、本堂裏手の崖下から清泉が湧き出ており、(：＊現在は、地下水を汲み上げている.）それを利用して市域では珍らしくわさびの栽培が行われていた。

*①真言宗ー仏教宗派の一.密教(みきょう)とも称.六天・四曼・三密・即身成仏を宗旨(しゅうし)とする.インドに起こり、唐に伝わり。金剛智の弟子不空に至って大成。平安時代の８０５年入唐した弘法大師(こうぼうだいし)＝空海(くうかい)は不空の弟子恵果に師事、帰朝後、東寺・金剛峰寺などによってこれを弘通.後、古義・新義に分かれている. ー「密教」秘密教の意。何か怪しげな秘儀を行うと誤解されやすいが、密とは、仏と人との出会い(合一体験)である. 空海が伝えた真言宗を東密(とうみつ)といい、他に最澄、円仁らが伝えた台密もある。

*②智山派ー空海が真言宗を改宗から約３００年を経て、興教大使(こうぎょうたいし)＝覚鑁(かくばん)は高野山に大伝法院を建立し、その後、紀州に根来山(ねごろさん)を開創、桃山期に至り、根来山は秀吉の焼き打ちに遭い、難を避け、京都市葉山区の智積院(ちしゃくいん)を全国３千寺院は結集し智山派として、総本山と定めた。大本山は、成田山新勝寺(しんしょうじ)・川崎大師平間寺(へいけんじ)・高尾山薬王院(やくおういん)。

記　　防犯宮沢支部　西山　禎一